

採卵鶏へのアミノ酸製剤を添加した低タンパク質飼料給与が収益に与える影響

○小島潤也 梶原浩平

養鶏研究所

【目的】家畜の配合飼料価格は原料の国際相場、海上運賃、為替等の動向が反映される。成鶏用配合飼料のタンパク質源は主に大豆油粕、菜種油粕や魚粉であり、その生産量や国際的な需給により価格が大きく変動し、配合飼料価格上昇の一因となっている。一方、採卵鶏の必須アミノ酸であるリジンとメチオニンは飼料添加物として工業的に生産され、農水産物原料よりも価格の変動が小さいため、配合飼料価格の上昇を抑制する効果が期待できる。そこで、粗タンパク質（CP）含量が低く安価な配合飼料に、アミノ酸製剤（リジン、メチオニン）を添加した低タンパク質飼料給与が採卵鶏の収益に与える影響について検討した。【材料及び方法】白色卵鶏 240 羽、褐色卵鶏 240 羽を供試鶏とし、産卵期を前期（120 日齢～357 日齢）、中期（358 日齢～497 日齢）及び後期（498 日齢～637 日齢）の 3 期に分け、飼料中の CP 含量を、前期 CP18%、中期 CP17%、後期 CP16%としたものを対照区とし、前期 CP17%、中期 CP16%、後期 CP15%と対照区と比較して CP 含量を 1%低減した区（低 CP1%区）、前期 CP16%、中期 CP15%、後期 CP14%と対照区と比較して CP 含量を 2%低減した区（低 CP2%区）の計 3 区を設定。なお、リジンとメチオニンの添加量は、株式会社ゲン・コーポレーションの飼養管理マニュアル値を満たすように調整。調査項目は産卵率、卵重、日卵量（産卵率×卵重）、飼料摂取量、飼料要求率（飼料摂取量÷日卵量）とし、これらから、期間中全体での 1 羽当たり平均の鶏卵生産額、飼料費及び収益額（鶏卵生産額－飼料費）を試算。【結果及び考察】鶏卵生産額の平均値は、白色卵鶏では、対照区で 7,806 円、低 CP1%区で 7,934 円、低 CP2%区で 7,611 円、褐色卵鶏では、対照区で 8,248 円、低 CP1%区で 8,276 円、低 CP2%区で 7,651 円と、両鶏種ともに低 CP1%区で対照区よりも高くなった。飼料費の平均値は、白色卵鶏では、対照区で 4,212 円、低 CP1%区で 4,207 円、低 CP2%区で 4,179 円、褐色卵鶏では、対照区で 4,227 円、低 CP1%区で 4,241 円、低 CP2%区で 4,330 円となった。そして、収益額の平均値は、白色卵鶏では、対照区で 3,595 円、低 CP1%区で 3,726 円、低 CP2%区で 3,433 円、褐色卵鶏では、対照区で 4,021 円、低 CP1%区で 4,035 円、低 CP2%区で 3,321 円と、低 CP1%区で、両鶏種ともに対照区よりも高くなった。この結果より、CP1%低減飼料にアミノ酸製剤を添加することで、収益向上に繋がることが示唆された。

種畜：鶏、分類：畜産技術、キーワード：低タンパク質飼料、経済性、必須アミノ酸